

11月9日ルネサンス研究所関西公開講座

〈 Kommunismus 〉の可能性

講師 植村邦彦さん(関西大学経済学部教授)

日時:2019年11月9日(土) 午後2時~5時 終了後交流会

会場:高槻市生涯学習センター(高槻市役所内)

参加費:資料代500円



Kommunismus について、多様な見解が表明されるようになりました。公開講座では、グレーバーの「基盤的 Kommunismus 」に詳しい植村さんをお招きします。植村さんには、「基盤的 Kommunismus 」の内容を説明していただき、「 Kommunismus 」論と「負債」論との関係を確認します。

その上に立って、負債と贈与、交換と再分配などの関係を、ニーチェ、モース、サーリンズ、ゴドリエなどに即して報告していただき、最後に「 Kommunismus の可能性」について、ネグリとハート、ハーヴェイ、メイソン、シュトレック、そしてグレーバーの近著『Bullshit Jobs』(2018)での主張を紹介していただきます。これらの議論の材料の提供をもとにして、 Kommunismus の可能性に

についての議論を深めていきたいと考えています。奮ってご参加ください。

植村邦彦さんの著書

『隠された奴隷制』、(集英社新書)、2019

『ローザの子供たち、あるいは資本主義の不可能性: 世界システムの思想史』、平凡社、2016

『市民社会とは何か——基本概念の系譜』、平凡社(平凡社新書)、2010

『アジアは「アジア的」か』、ナカニシヤ出版、2006

『マルクスのアクチュアリティ——マルクスを再読する意味』、新泉社、2006

『「近代」を支える思想——市民社会・世界史・ナショナリズム』、ナカニシヤ出版、2001

『マルクスを読む』、青土社、2001

『同化と解放——19 九世紀「ユダヤ人問題」論争』、平凡社、1993

『シュルツとマルクス——「近代」の自己認識』、新評論、1990

最近の論文に「贈与と分かち合い—グレーバー『負債論』をめぐって」(『情況』2019年冬号)がある。

主催:ルネサンス研究所関西運営委員会担当者 境 毅

連絡先: E メール sakatake2000@yahoo.co.jp

電話 080-3139-7820

ルネサンス研究所関西 HP <https://www.runekenkansai.com/>